

<研究の名称>

「高齢入院患者の入院前後での潜在的不適切薬剤の
変化と減薬機会についての研究」

当院で以下に説明する研究(調査)をすることになりましたのでご案内します。

◆研究(調査)の対象となられる方と方法

2014年9月から2016年12月頃にかけて当院内科に入院された65歳以上の方で、急性疾患が理由で入院された方が対象になります。診療録(カルテ)に記載された既往歴、内服薬、診療内容などを調べて研究(調査)に使わせて頂きます。個人情報とはデータ収集の時点で匿名化し厳重な保護を行います。従って研究結果の発表に際して個人が特定されることはありません。

◆研究(調査)の背景と目的

社会の高齢化に伴い多くの病気を持つ高齢者が増え、多くの薬を内服する高齢者が増えています。しかし残念なことに、実際にはその内服している薬の中には不適切な処方薬が意外と多いという報告があります。そういった場合は、薬の効果よりも害が勝る可能性があり危険です。そのため不適切薬剤を減らすための試みが世界的に行われてきています。しかし、こういったタイミングで減薬すればよいかはわかっていませんが、急性疾患での入院が減薬する上で一つのタイミングとして一般的には認識されています。そこで、今回、こういった理由の急性疾患で入院した際に減薬しやすいかどうかを検証するのが目的です。

この期間に当院内科を入院されたことがある患者様で、もしご自身のデータを研究(調査)に使用されたくない場合は、診療情報を使用致しませんので、下記のお問い合わせ窓口まで、お申し出ください。なお、この研究で新たなご負担はありません。

◆お問い合わせ窓口(平日 13:00-16:00)

国立病院機構 栃木医療センター 内科 駒ヶ嶺 順平 電話：028-622-5241